

第4段階：ガリラヤにおける大宣教

I. イエスの第三回ガリラヤ巡礼とその余波

デイリー・ジーザス・ニュース #110

3. イエスは十二使徒とともにベツサイダへ退かれる

マルコ6.30-34（並行テキスト：マタイ 14.13-14。ルカ9.10-11。ヨハネ6.1-3）

さて、イエスはヨハネの死を聞いて、そこから立ち去られた。

(30) 使徒たちは、^Lは宣教活動から帰ってきたとき、彼らはイエスのもとに集まり、自分たちのしたことや教えたことをことごとく報告した。(31) すると、大勢の人が出入りしていて、食事をする暇もないほどだったので、イエスは彼らに言わされた。

「私と一緒に静かな場所に来て、少し休みましょう。」

(32) そこで彼らは舟に乗って寂しい所へ行き、ベツサイダという町へ^Jガリラヤ湖の向こう側。ティベリアとも呼ばれる。

(33) ^{MT}しかし群衆はこれを聞いて、彼らが去っていくのを見た多くの人々は、彼らだと気づき、すべての町から歩いて駆けつけ、彼らより先にそこに着いた。そして、大勢の群衆がイエスに従った。イエスが病人たちに行われたしるしを見たからである。

(34) イエスは陸に上がって大勢の群衆を見て、彼らを深く憐れみ、^Lは彼らを歓迎した。^{MT}は彼らの病人を癒し、^M彼らが羊飼いのいない羊のようであったからである。そこでイエスは彼らに多くのことを教え始めた。

=====

注：私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します：マタイ = ^{MT}、マーク = ^M、ルカ = ^L、ヨハネ = ^J、使徒行伝 = ^A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書書を識別します。さらに、**イエスの言葉は赤字で斜体で書かれています。**旧約聖書からの引用は大文字で書かれています。

コンテキストダイジェスト

位置	ベツサイダ
タイムライン	3月下旬（26ヶ月目）
イエスの生涯の文脈	第4段階：ガリラヤにおける大宣教
	I. イエスの第三回ガリラヤ巡礼とその余波
タイトル	3. イエスは十二使徒とともにベツサイダへ退き、そこで説教する

第4段階：ガリラヤにおける大宣教

I. イエスの第三回ガリラヤ巡礼とその余波

コメント：

の朗読では、使徒たちは第三巡回の終わりにイエスのもとに集まりました。イエスは彼らに「町々を巡りなさい」（マタイ10:23）と指示されました。彼らは二人一組でガリラヤの町や村を訪ねました。これは、この6ヶ月の間に、各町や村が最大7回の宣教訪問を受けたことを意味していたようです。二人一組の6組がそれぞれ1回ずつ、そしてイエスが1回ずつ訪問したのです。イエスの戦略により、その地域は歴史上かつてないほど伝道と宣教で満たされました。

ガリラヤ全土に広がる説教と癒しの爆発的な広がりは、人々の間に、そして使徒たちが帰還したイエスの旅弟子たちの一行の間にも、活気をもたらしました。イエスは十二使徒たちに報告を行いましたが、絶え間ない混乱のため、食事をする暇もなく、ましてや静養してリフレッシュする時間などありませんでした。洗礼者ヨハネの死の知らせが届くと、イエスは湖を渡り、ベツサイダの北東端にある人里離れた地域に戻り、使徒たちへの報告とその後の訓練を続けることにしました。使徒たちは、喧騒を離れて休息とリフレッシュを切実に必要としていました。イエスは祈り、考える時間を必要としていました。

の最大の奇跡の一つである「五千人の食事」の背景と始まりを説明しています。そのため、この出来事には独特の特徴があります。四福音書全てに並行して記述されていることに気付きましたか？イエスの裏切り、逮捕、死、そして復活の物語を除けば、五千人の食事はイエスの生涯において四福音書全てに記録されている唯一の出来事です。だからこそ、この出来事は実に特別なのです。

この箇所は、他にもいくつかの理由で重要です。まず、「私と一緒に静かな場所に行き、少し休みなさい」というイエスの命令は、イエスの宣教における新たな重要な展開を示しました。ここでイエスは初めて群衆から身を引かれます。間もなくイエスはイスラエルの領土を完全に離れ、ガリラヤの北東にある異邦人の地域に約5ヶ月間留まります。イエスは宣教の焦点を再び移されました。（この点については、今後のDJNのコメントで詳しく取り上げます。）

イエスは宣教の最終年を迎えようとしていました。多くの学者が「反対の年」と呼ぶ年です。イスラエルの指導者、世論、そして弟子たちの一部さえも、イエスに敵対するようになりました。3度の計画的な巡回旅行を通してガリラヤの民全員がイエスのメッセージを確実に聞き届けたイエスは、今や群衆から一步身を引き、天に帰った後に残していく人々の訓練に専念しました。

これらすべてが、朗読の後半の描写をより一層印象深いものにしています。イエスは十二人と静かな場所に引きこもろうと決めていたにもかかわらず、群衆が介入し、その計画を妨害しました。彼らはイエスが湖の西岸から船で出発するのを見ており、ベツサイダの着岸地まで帆船を追い越して走ったのです。イエスが後に残そうとした大群衆は、道中の町々の人々も加わり、一夜にしてその数を増やしていました。

イエスの無条件の愛は、彼らを苛立ちから拒絶するのではなく、彼らに同情を示したことの中に見ることができます。イエスはご自身が骨身を削るような疲れを負っていたにもかかわらず、彼らを温かく迎え入れ、ベツサイダの北東の丘陵地帯で丸一日かけて教え、癒しを与えるました。

福音書の中で、イエスが一日の宣教活動で多くの人々を癒したという目撃証言は、これで7度目です。イエスに対する憎しみや反対が強まる中、イエスは人々を羊飼いのいない迷える羊として見ていました。そして、彼らの必要に応えたいという強い思いに駆られました。なんと素晴らしい恵みでしょう。

第4段階：ガリラヤにおける大宣教

I. イエスの第三回ガリラヤ巡礼とその余波

応用：

イエスは、私たちが近づく時、いつも私たちのために時間を割いてくださいます。宇宙を支配しておられるにもかかわらず、私たちに十分な注意を払えないほど忙しいことは決してありません。そして、常に私たちに慈しみ深く仕える用意ができています。私たちはイエスの喜びであり、楽しみです。イエスは私たちとの交わりを大切にしてくださいます。

イエス様はいつでも私たち一人一人を最優先に考えてくださるので、私たちもイエス様に同じ態度で応えるべきです。

私たちは主との交わりを、何よりも大切なものの、そして最大の喜びとして大切にすべきです。あなたはどのように実践していますか。